

ぞれ違いますが、まだ国内で誕生してわずか20年の業態なので、自分自身で創り出すことができます。

ただ、新薬を開発することで、苦しんでいる患者さんを助けることができるのですから、日々の仕事から“社会貢献”を実感できる数少ない業界であるのは間違いありません。こうした思いを持っている方にとっては、進路の選択肢の1つと言えます。

——どういった人材に入社してほしいでしょうか。

植松 仕事そのものが社会貢献の1つであり、業務の範囲を超えて幅広く物事を考えられる人材が必要になります。「G C P」を学ぶのはもちろん、医療機関や患者、病気のことなど幅広い視点から知識を吸収していく柔軟性が必要でしょう。さらに多くの人たち

と協力しながら仕事を前に進め、チーム全体を引っ張っていくリーダーシップもC R Oに求められているように思います。

南 求められるスキルや高度化している分、チャレンジ精神が旺盛な方に来ていただきたいです。2012年12月にG C Pが改正され、製薬企業からC R Oへの外部委託が従来の「一部」から、「一部若しくは全部」へと認められました。製薬企業は臨床開発の全てをC R Oに委託することが可能になり、C R Oの活躍できるフィールドが広がりました。

入社される1人ひとりの方に“自立したプレイヤー”の意識を持っていたきたいと思います。安定志向や現状に満足するのではなく、変化を楽しみ努力できる方には、多くの成長機会が



与えられていると思います。

だけよう、引き続き情報提供していきたいと思っています。

——人事評価制度などはいかがでしょう。

植松 能力に応じた給与体系、評価システムがあります。一定のスキルを身につければ、どんどん新しい分野に挑戦できる社内風土を持つ企業が多いのではないのでしょうか。C R Oの裾野が拡大するにつれて、各社も成果に見合った評価制度やキャリアパス制度に力を入れています。

南 女性が活躍できる業界だと言え

ます。働きやすい環境があり、データを1つひとつ確認する業務の特性から、女性の細やかさを生かすことができます。実際、モニター全体の約65%は女性が占めています。

産休・時短勤務にも対応し、会員会社によっては託児所を開設するなど働きやすい環境を整備しています。中には、「1時間有給休暇」というユニークな制度をつかった会員会社もあります。これだと、幼稚園や保育園でお子さんを迎えに行く際に、1時間早く仕事を終えることができます。こうした環境も、20年の歴史を積み上げてきた結果が反映されていると思います。

チャレンジする人材に期待

——薬学生にメッセージを。

植松 C R O業務は、社内のみならず、社外で製薬会社、医療機関の先生方、C R Cなど多くの人と関わる仕事です。将来的なキャリア形成に向け、成長できる土壌があるのではないかと思います。また、製薬企業のいろんなプロジェクトを経験でき、必要な知識やコミュニケーションを磨くことができます。社内でやる仕事と社外の人たちと協力してやる仕事の両方のスキルを兼ね備えられます。

南 C R O業界は、揺籃期から創造期、確立期を経て、成長・発展期を迎

えました。これから、大事な発展期を経験できるという点で、薬学生のみならずには大きなチャンスがあるのではないのでしょうか。

私が所属する会社では、新卒社員に『入社後1年間の君たちの仕事は失敗することだ』という言葉を送っています。その期間を過ぎると、失敗が許されないような立場になりますが、それまでは先輩たちがフォローしてくれます。だからこそ、臆せずチャレンジする人材に期待しています。新たな時代を切り拓くみなさんの若い力と挑戦をお待ちしています。

開発から育成までをサポート

——製薬企業による新薬の世界同時開発が進むにつれて、C R Oもグローバル化に動き出しています。

植松 まだまだ日本国内だけで実施する治験もありますが、国際共同治験の割合が全体の約35%にまで拡大してきました。臨床試験の国際化や標準化が叫ばれるようになり、日本国内で治験業務に携わる人たちも海外の臨床試験の手法を取り入れていかなければならない時代を迎えています。

世界と肩を並べ、追いついていくために、英語スキルは必要となるでしょう。ただそれ以上に、国内の臨床試験の効率化や高質化に求められているもの、足りないものを探り、改善できるのがグローバルな人材です。大局観を持って仕事に取り組む姿勢が重要です。

新薬開発支援だけでなく、薬剤が世の中に登場した後の製造販売後調査のサポートを強化する動きも出ています。多くの患者さんに薬剤が使われるようになった後、治験では確認されて

いない副作用や有害事象の調査業務や、市販後に既存薬との有効性や安全性を比較する臨床試験を受託するC R Oも増えています。臨床エビデンスを蓄積し、多くの患者さんに使われる“育薬”に対する貢献も期待されているのではないかと思います。

——協会や各社の教育体制はどうですか。学生からの認知度はどういう状況でしょうか。

植松 各社が工夫して教育プログラムを作成し、それをもとに人材育成に取り組んでいます。G C Pなど業務の基礎となる知識は、協会が「モニター教育研修」に関する基準として定め、研修プログラムの修了者に対しては、『日本C R O協会C R A教育研修修了認定試験』を実施し、業務に必要な知識・能力を認定しています。これらの取り組みは、協会に属する会社のモニターの業務実施レベルをできるだけ均質化し、業務実施水準を底上げするのに寄与していると思います。

南 大学の協力もあり、学生の方からC R Oに対する認知度も高まっています。新薬開発に関わる業務を志望する学生さんの進路でも、研究所や製薬企業に続く3つ目の選択肢として、C R Oを検討している方も増えてきました。C R O業務を正しく理解していた



2014年 元旦
あけましておめでとうございます。

薬学ゼミナールは今年も薬剤師を目指す
皆さまを 応援・サポート しています。

短期コース 渋谷教室1月開校

薬ゼミの短期集中プログラムで、基礎から一気にまとめ上げていきます。とにかく実践あるのみです。
『行動＝結果』最短コースにして飛躍的效果をもたらします!

オンライン短期コース1月6日スタート

約1100の動画講義で全範囲を網羅しており、問題解説動画で実践力も身に付けられます。
更に、専用のポータルサイトで学習状況の管理を実現し、個人学習を強力にサポートします。

薬ゼミの要点集 好評発売中
必要な知識をさっと引き出す国試直前のナビゲーター



学校法人医学アカデミー

薬学ゼミナール



0120-77-8903

HP: www.yakuzemi.ac.jp

E-MAIL: info@yakuzemi.ac.jp

●仙台教室 ●お茶の水教室 ●大阪教室
●川越教室 ●池袋教室 ●神戸教室
●渋谷教室 ●名古屋教室 ●福岡教室